

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 14 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520402

研究課題名(和文) フローベールと身体 文学作品を通じた新たな身体知の構築に向けて

研究課題名(英文) Flaubert and the Body - Body Images in French Literature

研究代表者

菅谷 憲興 (SUGAYA, Norioki)

立教大学・文学部・教授

研究者番号：50318680

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円、(間接経費) 1,110,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は「身体性」をキーワードに、フランス十九世紀最大の小説家の一人であるギュスターヴ・フローベールの諸作品、特に『ブヴァールとペキュシェ』を取り上げて、それを同時代の知の言説との関連において解読しようと試みるものであった。草稿まで含めたフローベールのテキストを、医学、教育学、哲学などの同時代の身体にかかわる知と実証的に照合させることにより、一篇の文学作品が異質な言説を取り込みつつ、いかにして一つの自律した作品へと練り上げられていくかを明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：This study attempted to decipher the works of Gustave Flaubert who had been one of the most representative French novelists in nineteenth century, specifically focused on Bouvard et Pecuch et, in connection with the discourse of knowledge in the same period, with the keyword of "corporalite". This study revealed how a piece of literary work had been refined to an autonomous one absorbing heterogeneous discourses, by comparing empirically Flaubert's texts including his manuscripts with knowledge regarding physical matters in the same period such as medical science, pedagogy, philosophy, etc.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学(英文学を除く)

キーワード：フランス文学 国際研究者交流 身体 生成論 認識論 思想史

1. 研究開始当初の背景

(1) フランス現代思想、あるいは英米系のカルチュラル・スタディーズ等の影響の下に、文学研究においても「身体」のテーマが脚光を浴びるようになって久しい。特にフランス文学研究の領域においては、テーマ批評や精神分析的読解といったいわゆるヌーヴェル・クリティック(新批評)が、文学テキストの内包する身体性を掘り上げるための有効なアプローチを提供してきた。フローベール研究の文脈においても、文学作品に書きこまれた「感覚」の機能と意味を分析したジャン＝ピエール・リシャールの画期的な論考以来、この研究動向におけるすぐれた成果は枚挙にいとまがない。しかしながら、現象学や精神分析といった哲学的思考をモデルとするこれらの分析が、しばしば身体や感覚を抽象的な普遍性においてのみ捉え、その文学表象の歴史性を等閑視してきたことも、また否定しがたい事実であると言えよう。

(2) 研究代表者・分担者はいずれも本研究以前から、フローベールの未完の遺作である『ブヴァールとペキュシェ』を主な研究対象として、文学と知のテーマに関わる重要な業績を、日本のみならずフランスでも定期的に発表してきた。とりわけ菅谷は医学史、和田は教育学史、山崎は哲学史との関連において小説を読み解く作業を続けており、それらの成果は国内外で高い評価を得ている。今回の研究においては、上記3人がこれまで蓄積してきたフローベール研究および十九世紀思想史・科学史の豊富な知識を活かしながら、『書簡』も含めたフローベールの全作品をコーパスに、文学と身体のテーマに切り込むことを目指した。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、フランス十九世紀最大の小説家の一人であるギュスターヴ・フローベール(1821～1880)を対象に、その諸作品および文学創造を「身体」というテーマから解き明かすことを通じて、小説という言語表象形式がはらむ様々な位相の身体性を考察することを目的としている。

(2) 身体をめぐる紡ぎだされる言説は決して非歴史的なものではなく、文学作品や科学によって描かれる身体には、それぞれの時代の刻印が否応なく刻まれている。本研究では、1の(1)で述べた重大な欠落を埋めるべく、十九世紀フランスの身体に関わる諸々の知を参照しつつ、「文学と身体」をめぐる考察に歴史的かつ認識論的な次元を導入しようとする試みである。具体的には、医学、教育学、哲学の3分野を取り上げつつ、まずはこれらのディシプリンが、フローベールの同時代に、どのように人間の身体を解析したかを詳細に検討し、次にこれらの知の言説と文学表象との相関関係の分析を通じて、最終的には小説に描かれた「身体的なもの」の歴史性を明らかにすることを目的とした。小説作品を同

時代の思想史の文脈に置き直して読むことにより、フローベール研究のみならず十九世紀フランス文学研究一般に新たな視座を開くことができるのではないかと考えた。

3. 研究の方法

(1) 2で述べた目的を達成するに当たって、本研究は学際的な視点から文学作品にアプローチすることを心掛けた。具体的には、菅谷が十九世紀医学史、和田が教育学関係の思想の歴史、山崎が折衷主義を中心とする哲学史の知見を活かして、多角的にフローベールのテキストを分析すべく努めた。各々がそれぞれの角度から分析対象として設定したコーパスを丹念に読み込む作業を通じて、最終的には身体性という観点から小説の美学を照射することを目指した。

(2) 本研究ではまた、フローベールの作品の決定稿のみならず、下書きや読書ノートなどの草稿類も積極的に分析の対象として取り上げた。いわゆる生成論的なアプローチを採用したわけであるが、文学研究のこの新しい手法は文学テキストと知をクロスさせながら読み解くに当たってはきわめて有効であることが知られている。実際、草稿の詳細な検討を通じて、一見異質な知のディスコースが文学テキストの中へと組み込まれていくプロセスを解明することにより、知の言説が文学の言葉として立ち現われる微妙な瞬間に光を当てることができたと考えている。

4. 研究成果

(1) 本研究は「身体性」をキーワードに、フローベールの諸作品、特に『ブヴァールとペキュシェ』を、それもその草稿まで遡りながら、同時代の知の言説との関連において解読しようという問題意識のもとに行われた。3年間の研究ではこのような広大な射程を持つテーマの総体をカバーすることはできなかったが、それでも発表した論文の数から見ても、とりあえずは十分な成果を挙げられたと自負している。フローベールのテキストを当時の身体にかかわる知と照合させることにより明らかになったのは、小説という言語による芸術作品が、きわめて雑多な要素をその内部に含みこみながらも、最終的にはそれ自体が一つの自律した構造体となるべく作り出されたということである。このような文学作品のあり方(芸術の自律への志向性)を普遍的なものともみなすのではなく、あくまで十九世紀という時代と結びついた歴史性の表れと捉えるのが本研究の立場であるが、研究代表者・分担者3名の実証的な作業によりこの仮説をある程度まで裏付けることができたように思われる。

(2) 菅谷は『ブヴァール』の医学に関するセクション(第3章)の下書き草稿を転写・分類した上で、医学の言説からフィクションの言葉が立ち上がってくる生成プロセスの分析を行った。読書ノートや下書きの綿密な読

解を通じて、科学の理論が必然的に孕んでいる政治的・身体的な次元が小説家の想像力を刺激する現場を具体的に跡付けることができた。また文化史的な調査によって得た知見を活かして、バルザックやユゴーについての論考も物することができた(雑誌論文のと

と)
(3)和田は、『ブヴァール』第10章における教育学挿話において、まず、物語時間と執筆時間のずれに注目し、父権にたいする社会の介入、教育学的知の実証主義化など、子どもの身体を拘束する制度と訓育する知の変容について、読書ノートと下書きの転写と分析を通じて検証した。次に、外(身体)から内(心)を読み取る知としての骨相学に注目し、十九世紀に流行したこの似非科学が物語化される下書き段階で、こどもの性質の善悪を判断する際の曖昧さが、父性や所有権、肉としてのテキストをめぐる曖昧さに拡大され、こどもの身体がテキストの身体に回収されて行く過程を明らかにしようと試みた。

(4)山崎は、『ブヴァール』の動物磁気・神秘思想・哲学に関するセクション(第8章)を主たる分析対象にした。まずフローベールが第8章のために作成した読書ノートを解読・転写した上で、この読書ノートのコーパスを思想史のなかに位置づけた。そしてフローベールが、一方では催眠や幻覚といった心的・身体的現象をめぐる疑似科学的言説を、他方では身体と精神の相関性をめぐる哲学的言説を、いかに換骨奪胎して小説に組み入れたのかを分析した。またテーマ批評の金字塔、ジャン＝ピエール・リシャール「フローベールにおけるフォルムの創造」の訳書に付した論考(図書)において、微細な感覚や質感を描きだすフローベールの文体に固有の身体性の次元を明らかにした。

(5)また研究2年目に当たる2012年度には、本研究の射程を広げるため、2名の研究協力者を招聘し、学術的な催しを行った。立教大学では12月15日に「小説、散文、フィクション フローベールをめぐる」と題した公開講演会を開催。東京大学名誉教授の蓮實重彦氏にフィクションについて、ジョンズ・ホプキンス大学教授のジャック・ネーフ氏に沈黙や感覚と結びついた身体性についてそれぞれ講演していただいた。西南学院大学では12月17日に、「テキストとイメージ」という題の下に、十九世紀文学と絵画との関連についてネーフ氏にセミナー形式で語っていただいた。どちらの催しも盛況で、学術的にも大変意義のあるものであった。特に立教大学での講演は、その後日本語訳を文芸誌に掲載したが(雑誌論文の、)、新聞の文芸時評にも取り上げられるなど、専門家の枠を超えた広い読者層からの大きな反響を得ることができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

[雑誌論文](計13件)

蓮實重彦、工藤庸子、菅谷憲興、「生まれたばかりの散文」と向き合う、文学界、査読無、68-7、2014、pp.150-173。

菅谷憲興、ポンスから二十面相へ 蒐集家としての怪盗の肖像、大衆文化、査読無、10、2014、pp.9-19

Norioki Sugaya、Entre le premier et le second volume de Bouvard et Pecuchet : Flaubert et Raspail、Revue Flaubert、査読無、13、2013

<http://flaubert.univ-rouen.fr/revue/article.php?id=164>

Mitsumasa Wada、L'enfant et le positivisme dans Bouvard et Pecuchet de Flaubert、Revue Flaubert、査読無、13、2013

<http://flaubert.univ-rouen.fr/revue/article.php?id=144>

Atsushi Yamazaki、Sur quelques aspects chronologiques du dossier Mysticisme - Magnetisme、Revue Flaubert、査読無、13、2013

<http://flaubert.univ-rouen.fr/revue/article.php?id=168>

ジャック・ネーフ、山崎敦訳、フローベール、散文の近代芸術、文学界、査読無、67-4、2013、pp.200-212

蓮實重彦、「かのように」のフィクション概念に関する批判的な考察 『ボヴァリー夫人』を例として、文学界、査読無、67-4、2013、pp.213-234

Norioki Sugaya、La densite des mots dans Bouvard et Pecuchet、Flaubert. Revue Critique et genetique、査読有、7、2012

<http://flaubert.revues.org/1807>

Atsushi Yamazaki、Quel est le but de tout cela? - Les "causes finales" dans Bouvard et Pecuchet、Flaubert. Revue Critique et genetique、査読有、7、2012

<http://flaubert.revues.org/1815>

和田光昌、宿命としての「動物」、小説としての「もの」 ゾラ『テレズ・ラカン』論、フランス語フランス文学論集(西南学院大学学術研究所)、査読有、55、2012、pp.115-132

Norioki Sugaya、La poetique documentaire de Bouvard et Pecuchet. Visibilite des savoirs et arrangement scenarique、Arts et savoirs、査読有、1、2012

<http://lisaa.u-pem.fr/arts-et-savoirs/arts-et-savoirs-n-1/>

菅谷憲興、名前の不在、群像、査読無、66-10、2011、pp.270-271

菅谷憲興、エンマとラ・ゲリーヌ 十九世紀文学とヒステリー、仏語仏文学研究(東京大学仏語仏文学研究会) 査読有、42、2011、pp.105-116

〔学会発表〕(計13件)

山崎敦、フローベール『ブヴァールとペキュシェ』における知の言説、「19~20世紀のヨーロッパにおける科学と文学の関係」第5回シンポジウム、2013年11月9日、南山大学(愛知県)

Norioki Sugaya、Les corps des savoirs - Les sciences medicales dans l'espace de la fiction、Bouvard et Pecuchet: archives et interpretation、2013年3月21日~3月23日、Bibliotheque nationale de France (Paris)

Atsushi Yamazaki、Le parcours philosophique de Bouvard et Pecuchet、Bouvard et Pecuchet: archives et interpretation、2013年3月21日~3月23日、Archives nationales (Paris)

Mitsumasa Wada、L'art d'etre pere adoptif de Bouvard et Pecuchet、Bouvard et Pecuchet de Flaubert, roman et savoirs、2013年3月7日~3月9日、Universite de Rouen (Rouen)

Norioki Sugaya、La densite des mots dans la fiction des savoirs、Bouvard et Pecuchet: genese et interpretation、2012年6月1日、Ecole normale superieure (Paris)

Atsushi Yamazaki、Les "causes finales" dans le dossier "Philosophie" de Bouvard et Pecuchet、Bouvard et Pecuchet: genese et interpretation、2012年6月1日、Ecole normale superieure (Paris)

Norioki Sugaya、Entre les brouillons et le dossier des notes: le cas du chapitre medical、Bouvard et Pecuchet: les "seconds volumes" possibles、2012年3月7日~3月9日、ENS de Lyon (Lyon)

Mitsumasa Wada、Le statut de l'enfant a travers les notes de lecture sur l'education、Bouvard et Pecuchet: les "seconds volumes" possibles、2012年3月7日~3月9日、ENS de Lyon (Lyon)

Atsushi Yamazaki、Le magnetisme animal dans les notes de lecture、Bouvard et Pecuchet: les "seconds volumes" possibles、2012年3月7日~3月9日、ENS de Lyon (Lyon)

和田光昌、人間と動物の間に 19世紀フランス小説の一側面、福岡日仏協会、2011年11月1日、九州日仏学館(福岡県)

〔図書〕(計2件)

Anne Herschberg Pierrot, Norioki Sugaya, Atsushi Yamazaki 他、Editions nouvelles Cecile Defaut、Bouvard et Pecuchet: archives et interpretation、2014、422 (Sugaya、pp.103-121 / Yamazaki、pp.169-184)

ジャン=ピエール・リシャール、芳川泰久 / 山崎敦訳、水声社、フローベールにおける

フォルムの創造、2013、240

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

菅谷 憲興 (SUGAYA, Norioki)
立教大学・文学部・教授
研究者番号: 50318680

(2) 研究分担者

和田 光昌 (WADA, Mitsumasa)
西南学院大学・文学部・教授
研究者番号: 30299523

山崎 敦 (YAMAZAKI, Atsushi)
中京大学・国際教養学部・准教授
研究者番号: 70510791

(3) 連携研究者

()

研究者番号: